

令和6年度 第2回岐阜県介護現場革新会議 議事要旨

令和7年1月24日(金)

10:30~11:30

シンクタンク庁舎 大会議室

健康福祉部次長

○あいさつ

・開催あいさつ

事務局

○議題:岐阜県介護生産性向上総合相談センターの運営状況について

・資料説明

会長

センター運営事業についてのご意見はあるか。無ければ、構成員から今後のセンターへの期待とアドバイスをいただきたい。

構成員

・見守り機器については、現場で評価も高く、もっと導入促進が必要と感じている。
・ケアマネジャーの立場として、本会議の議題とは外れるが、国で行っているケアプランデータ連携システムは現場での活用が進んでいないため、現場の声を反映したもっと使いやすいシステムの開発を進めていただきたいと考えている。

構成員

・ICTや介護ロボットの導入は、大規模施設では比較的容易だが、小規模なグループホームでは難しく、特にICTは、職員の高齢化と相まってさらに難しい状況。
・協議会として会員への生産性向上のアピールが不足していたと考えているが、今後はITリテラシーが低い事業者向けに導入までサポートする伴走支援サービスを検討していただきたい。

構成員

・事業所へ直接訪問に来る業者やメーカーからの提案は、現場の状況を十分に理解したものであるか疑問に感じる。また、メーカー間の連携やアクセス共有にも問題があると考えている。
・昨年11月に開催された全国老人保健施設協会の大会では、会員が業者と直接触れ合うことができる機会を設けさせていただき、その中で業者もインパクトを感じたと聞いている。このような相互フィードバックを通じて、更なる進展が期待できると考えている。

構成員

・11月の岐阜県内の有効求人倍率は1.54倍であるが、介護職種は4.98倍と高い倍率となっている。
・10月~12月の介護就職支援強化期間に新たな取組みとして、最新のIT機器を活用している介護施設見学会を開催したところ、通常の4、5倍の求職者が参加した。この見学会では見守りシステムや音声入力システムなどの紹介が行われ、参加した求職者から高い評価を受けた。介護職を離れた方が見学会に参加し、介護業界の進化に驚き、再び介護職を考えるようになったという事例もあった。また、「働いてみたい」、「他の事業所も見学したい」という意見がある一方で、「介護現場を知ることができて良かったが仕事としては難しいと感じた」という意見もあった。
・最新の機器を求職者にアピールする必要性を感じており、1月21日に訪問入浴のデモンストレーションを含めた企業説明会を開催したところで、引き続きご協力をいただきたい。

構成員

・訪問介護事業所はメディア等で報じられているとおり、厳しい状況に直面しており、8月に相談のあった事業所の中には、「今年度で閉鎖するかもしれない」という話もあった。
・全国的には訪問介護事業所は増えているが、増えているのは施設併設型である。訪問介護における生産性向上の問題点について、ソフト会社と相談しながら模索しているところだが、従業員数10人未満の事業所では、ソフトやICTの導入は収益的に難しい現状であり、特に在宅系が厳しい。営業不振で倒産する訪問介護事業所の多くは中小零細であり、従業員数が10人未満である。
・生産性向上のためには、AI解析による、人数や単価、回数、行動などの費用対効果の判定が必要であり、そうしたソフトの開発に期待している。
・協会としては、来年も生産性向上に関する取り組みを継続し、セミナーなどを通じて推進したいと考えている。

構成員

・本日の資料で特に注目したのは、生産性向上研修会資料の「質の向上」と「量的な効率化」である。介護業界全体にとって非常に参考になると思いますし、ノウハウを蓄積し、標準化して相談対応に活かしていただきたい。
・介護サービスは、サービス産業に該当し、その時々ケアをする方とケアを受ける方との接点における品質と提供力が事業に直結する。私たちの相談対応でも、サービス業で多くの職員の方がクレーム対応に時間をとられ、悩んでおられると聞くと、初動対応を誤ると本来クレマーでない人がクレマーに発展することがあるため、防止が重要。顧客対応力の研修を行っている企業もあるが、マイナスイメージの業務を減らすことが職員のモチベーションを上げることにつながり、生産性向上に役立つと思われるので、是非こういったノウハウを蓄積していただきたい。
・人の仕事を機械に置き換えるだけでなく、減らした労働時間をスキルアップや質の高いケアの提供につなげ、労働時間の再分配を進めていくことがセンターの今後のミッションになっていくと思われる。

令和6年度 第2回岐阜県介護現場革新会議 議事要旨

構成員	・介護業界で一番の悩みは、介護人材不足・人材確保と、コロナ禍の影響による経営不振、業績悪化、利用者の減であり、こうした悩みを考えないと、生産性向上の推進がうまくいかないと思われる。 ・資料によると、介護現場では見守り機器やインカムの導入が進んでいるが、直接業務の負担軽減につながるため導入しやすいのだと思われる。研修参加者の約半数が管理者や経営者で導入のきっかけとしては良いが、活用するのは現場の職員なので、介護現場の中心的な職員がもっと参加出来ると良い。また、せっかく補助金で導入しても活用されないケースがあるので、導入にあたっては管理者と介護現場の中心的な職員が話し合うことが必要と考える。 ・県の補助金に関しては、一定期間のレンタルについても補助対象とし、本当に使えるのなら導入するという形が出来るとより効果が上がると考える。
構成員	・自主事業で介護人材向けの研修を実施していますが、今年度は、特にICTの現場での活用やリスク管理の研修について要望が多く寄せられており、来年度はこれらの研修の導入を進める予定。 ・毎年開催している「福祉のお仕事体験フェスタ ふくしワールド」においてリフトや介護ロボットの展示を行い、非常に好評を得ている。お子様や保護者の方の参加が多く、実物を見て操作することで、介護に対するイメージが変わり、介護職を考える人が少しでも増えることを期待している。 ・洗濯や掃除などの業務を介護助手が担うことで、介護業務の効率化が可能になると考えている。今後も介護現場の力となるよう、介護助手の導入を進める研修を含め、さまざまな取り組みを行っていきたい。
構成員	・介護現場の進化を積極的にアピールすることが求職者の増加につながると期待している。私が訪問した富山県の施設では介護現場の進化をアピールし、効果を得ているようだった。 ・岐阜県では介護人材育成事業者認定制度の認定事業者・取組宣言事業者であることが補助金の優先採択の要件の一つとなっているが、制度の標準化のためのアピールとして有効であり、認定事業者の増加につながると考えている。 ・私の施設では補助金を活用して5年間での導入を計画しているが、毎年1つのフロアに集中して施工することで、効果を最大化していく方向性を定めたところである。 ・見守りセンターの導入により、業務の効率化や看取り業務の負担軽減を実感している。また、骨伝導技術の導入により、特に外国人介護職員は音声による翻訳記録作業が容易になり、非常に喜ばれている。
構成員	・私が現役の頃の介護は、すべて人の力で行っていたため、職員からは腰痛などの声が多く聞かれた。しかし、現在は見守りセンサー、移乗支援機器やリフトの導入により、腰痛の問題はほぼ解消されるとともに、夜勤者の負担が減少し、職員の業務負担が大幅に軽減された。 ・一方管理職の立場としては、機器の故障や修理費の増加が課題と考えている。特に見守りセンサーの配線が切れるなどの問題があり、修理費が多額になることがある。また、施設の大規模修繕による全館停電で介護機器が使用できない場合の対応など、様々な想定が必要になると考えている。
高齢福祉課長	・岐阜県介護生産性向上総合相談センターは今年8月から開所されており、来年度も継続する予定。今日いただいたご意見はセンターで取り組んでいけるもの、県として考えていくべきものがありますが、今後の参考にさせていただく。 ・人材不足の状況を踏まえ、ロボットやICTの活用に留まらず、分業体制や整理整頓なども含めたトータルでの生産性の向上に取り組んでいただきたいと考えているので引き続き協力をお願いしたい。
会長	他に意見はございますか。
構成員	・補助金を活用して介護ロボット等を導入した事業所へ気軽に見学に行けると、より生産性の向上につながると思われる。
構成員	・私どもの相談窓口で支援を行っているネイリストさんがデイケアサービスの利用者のフットケアを定期的に行うことで、本来悪化していくQOL(「生活の質」「生きがい」や「満足度」)が改善したというデータがある。QOLを維持もしくは向上させていくような取組みに補助を行い、職員の負担を軽減することも生産性向上につながると思われる。

令和6年度 第2回岐阜県介護現場革新会議 議事要旨

会長	・最後に、構成員からの意見をまとめるとともに私が感じたことをお話しする。 ・本会議でご発言をいただいた内容として、小規模施設や在宅系サービスの生産性をいかに向上させていくのか、導入するにあたって伴走型の支援が必要でないかということ、介護機器については、故障や維持費などアフターケアの問題、停電時の対応についても見通しを持つことが重要ということが挙げられた。 ・生産性向上にあたっては経営状態を分析すること、顧客対応力を高めて行くこと、限られた人材の労働時間を効率よく配分してサービスの質の向上につなげていくための工夫が必要なこと。また、ICT活用の研修を現場職員を対象に行うこと、介護機器の普及で介護現場が進化していることを一般の方に情報発信することが必要ということなどが挙げられた。 ・介護現場のイメージ向上のために、社会に介護現場での取り組みや介護ロボット等の普及状況を伝えていくことが重要であり、業界全体での経験交流や先進事業所の視察も必要と思われる。 ・多数の意見をいただき感謝申し上げます。
事務局	・貴重なご意見をいただきありがとうございました。